

創立：1980年(昭和55年)1月10日 事務局：460-0008
長：関谷 俊征 名古屋市中区栄1丁目3-3 AMMNATビル7F
幹事：鈴木 淑久 TEL：052-211-3803
広報委員長：鳥山 政明 FAX：052-211-2623
例会日：毎週木曜日 PM12:30～ MAIL：2760@nagoya@mizuho-rc.jp
会場：ビルトシ名古屋 URL：http://www.mizuho-rc.jp/

2019-20年度
名古屋瑞穂ロータリークラブ
会長のテーマ
「50年に向けて新たな第一歩、
会員相互の理解を深めよう!」

2019-20年度
国際ロータリーのテーマ
ロータリーは世界をつなぐ
(ROTARY CONNECTS THE WORLD)



ROTARY CLUB OF NAGOYA MIZUHO

WEEKLY REPORT

第1908回例会

～平和と紛争予防・紛争解決月間～
クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2020年2月5日(水) 晴 第27回

4RC合同例会 於：名古屋マリオットアソシアホテル 16階「アイリス」

斉 唱：「君が代」「奉仕の理想」「手に手つないで」

名古屋東南RC会長挨拶 名古屋東南RC会長 中島美恵さん



4RC合同例会ではホストクラブが挨拶をすることで、恐縮ではございますが挨拶をさせていただきます。

まず講師の先生の都合により、スケジュールを変更を致しましたこと深くお詫び申し上げます。また、例会前に名古屋南RCの会員でいらっしゃいました長苗克彦さんの黙祷がありました。実は長苗さんとは30年以上前から夫婦共々プライベートでのおつきあいがありました。1月29日に突然の悲しい知らせを受けました。今日この場で私がこの話をするのにもなにかの縁ではないかと思っております。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

今日は何を話そうかずっと悩んでおまして、差し障りがあるかもしれませんが、RCにおける女性会員の誕生についてお話したいと思います。今から115年前、1905年(明治38年)の2月にRCの歴史が始まりました。ポールハリスを中心に、4人の男性によってスタートしたRC。長い間RCの定款と細則には、「RCの会員身分は男性に限る」と定められていました。RCの歴史が始まってから84年経った1989年、RI定款に変更が加えられ、RCの全てにおいて「男性に限る」規定が削除になり、世界中のRC・地区で女性がロータリアンになる事が認められました。日本で最初の女性会員は、北海道第2500地区清水RCの松田郁子さんです。1989年、日本では昭和から平成になった年です。消費税が竹下内閣によって導入された年でもあります。またソウルオリンピックの開催、美空ひばりさんや手塚治虫さんが亡くなった年でもあります。

それでは本日お集まりのRCの女性会員についてお話しします。名南RCさんでは1991年2月に創立された時から4名入会されており、現在は9名いらっしゃるということです。私ども東南RCの女性会員の第1号は、今から22年前の1998年に入会された医師の方だったそうです。現在12名の女性会員が在籍しております。2760地区では女性会員が少なだからに上昇しておりますが、会員数は減少気味です。名古屋東南RCで初めての女性会員入会の経緯に関して、当時の幹事さんにお尋ねを致しました。女性会員入会に対する会員の反対がすごかったということです。そしてその

当時の会員さんにアンケートをされて、反対される方とお話をして女性会員の第1号が誕生したということをお聞きしました。女性が入会して変化はありましたか?とお尋ねしましたところ、「特になし」ということでした。女性の立場から意見は様々あるでしょう。少し耳の痛いことを申しますが、男性だけで親睦を図りたいのですか?配偶者の配慮ですか?会員数を増やすための調整ですか?財政状況を整える為のことでですか?私個人的にはRCは男性社会だと思っております。それはそれで嫌ではなくむしろ男性主導でやっていただきたいと思っております。4名の歴史を作られた方達はどうに思っておられるでしょうか?皆様のいかがお考えでしょうか?僭越ながらお時間をいただきましてすみませんでした。以上で会長挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

出席報告

北岡寿人出席委員長

会員70名 出席47名(出席計算人数53名)

出席率 81.0% 1月30日は補填により87.3%

ニコボックス

北岡寿人ニコボックス委員長

・合同例会設営お疲れ様です。本日はよろしくお願い致します。

鈴木 淑久さん 梅村 昌孝さん 森 裕之さん
新見 光治さん 渡邊 将之さん

幹事報告

鈴木 淑久幹事

- ・2月6日(木)4RC合同例会による振り替えで休会となります。
- ・次週2月13日(木)第8回理事会が例会後4F「梅の間」で行われます。
- ・次々週2月20日(木)例会場が名古屋観光ホテル2F「曙の間」へ変更となっておりますのでお間違えのないよう、お願いします。
- ・2月8日(土)熱田RAC例会の担当は、西川さん、平安山さんです。

特別講演会

同志社大学大学院ビジネス研究科 浜 矩子教授

ご紹介に預かりました、浜矩子でございます。本日はこの場にお招きいただきまして、誠に有難く嬉しいことです。限られた時間でございますが、本日のテーマ「グローバル経済の曲がり角、向こう側で待ち受けているものは何か?」について皆様と一緒に考えていきたいと思えます。



ところで、私がこのような場にお招きをいただきましてお話をさせていただくということになりますと、皆様におかれては、定めし「いわゆるアベノミクス」、「私的に言えばアホノミクスの悪口をひたすら言い募るのであるとうご推察かと思いますが、もしもそうにご推察であるとすれば、その通りでございますと申し上げたいところでありますが、本日は時間の制約もございますし、ちょっと自重せねばならぬというふうに思っていますが、必要に応じてその辺もちょっと織り込んでいきます。

というわけでグローバル経済の向こう側、曲がり角、その向こう側で我々を待ち受けているものは何だろうということですが

こう側で我々を待ち受けているものは何だろうということですが、ずばり申し上げて、私は三つのものが虎視眈々と待っていると思っております。ものと言うより「de」で始まる三つの言葉が今我々を待ち受けていると思います。3つのde言葉ですが、一番目のde言葉は、deグローバルあるいはdeグローバル化、二つ目のde言葉は倒産する、破産する、破綻する、を意味するdefault、三つ目のde言葉は depopulation 人口減少です。すぐその角を曲がると、そこに「de global, default そして depopulation」という三つの問題が我々に重くのしかかってくる、とそんな感じのイメージを持っております。

まず最初のde グローバル化についてですが、要するに我々は「グローバル化、グローバル経済化の流れは、これからも変わることの無い帰らざる川だ」と思い込んできたわけですが、ところがここにきてこのグローバル化という現象が逆流し始めているのかもしれないということです。このde global あるいはde globalizationという言葉は、昨年のかなり早い時期あるいはもうちょっとそれより前から英語メディアには登場し始めましたが、意外にまだ日本のメディアには出てきておりません。要は日中間、米中間の通商摩擦に見られるが如く、グローバルサプライチェーンもだんだん縁切れになっていき、なんと今回この新型ウィルス問題も出て、一段と物理的にグローバルな経済活動の流れが切断され、「連鎖と融合のグローバル時代が、分断と排外の閉鎖時代になっていってしまうかもしれない」という懸念がぐっと強まって、そういう意味でこのdeグローバル化という現象とどう向き合っていくかが、今年及び今後においてかなり大きなテーマになってくると考えます。そこでこのdeグローバル化というのが日本のメディアに登場し始める段階では、単純に言えば「非グローバル化」と訳されることになると思われます。しかしどうも私は非グローバル化と言っただけでは、いわばdeグローバルイゼーションという言葉が持っている響き、緊張感、インパクトがどうもいま感じられず、何か別の字を当てられないかと考えてみました。非でなければ、不はどうだろう。不可能の不ですね。グローバルではなくなるという意味での不グローバル化ではどうかと思ったのですが、これは非グローバル化よりはもう少しインパクトや引っ掛かりは感じ取れますが、それでもまだちょっと迫力が足りないと思われれます。そうした中でふと思いついたのが、「非」がダメで、「不」もダメならば、残るは「破」しかない、破グローバルとしたらどうだろうと考えてみました。この破グローバルの破に破壊の破、破滅の破、破綻の破、破れるという字を当てると、迫力が出てくると思っただけだと思います。ビリビリと音を立てて、グローバルな人、物、金のつながりを引き裂いていく力が今や働いてしまっているということです。グローバル時代は実は誰も一人では生きていけず、誰もが誰かのお世話をし、誰もが誰かの世話になり、人類が本当の意味で支え合い分かち合うことのできる時代に、我々がうまくハンドリングすればなるはずでございます。しかしそのグローバル時代の関係性というものをぶち壊して打ち破っていくという、そういう力学が非常に強く働き始めてしまっているということ、この破グローバルにご用心ということです。ひょっとするとこの破グローバルという言葉は、アホノミクスに勝るとも劣らぬいいのではないかと思います、その普及に努めようとしております。

みんなが自分さえ良ければという方向に突っ走っていく中で、支え合い分かち合いのグローバルなつながりが破られていく破グローバルというテーマとの関わりで申し上げておけば、今の安倍政権において、アホノミクスと私は呼んでおりますが、彼らはいろいろ問題はあれど別にグローバル化に「待った」をかけるわけではないのではないかとと思われる方も少なくないと思いますが、それはさにあらずだと思えます。全ての根拠の説明は本日は省略して結論だけ申し上げますと、彼らが目指すところは21世紀版の大日本帝国の構築であるという風に私は確信してやみません。それはご本人の言葉から確認できるのですが、彼らは決してグローバルな連鎖と融合をうまく保持

してこうという側に立つ人々ではなく、究極の国粋集団であると確信しますが、それはそれといたしまして、以上が1番目のde言葉、de globalに関するお話でした。

2番目がdefaultという言葉で、ご承知のとおり個人の破産、国々の破綻、企業の倒産、を意味する言葉ですが、このdefaultの危機というのが、巷で意識されているよりもグローバルワイドに深刻な問題になっていると私は思います。何しろもうほぼ金利というものは存在しなくなり、お金を借りるのにならぬコストが発生しないという状況の中で、ふと気がつけば多くの国々の財政が火の車である状況は、もう我々はよく承知しております。実は国々の財政だけではなく、企業もやたらに事業債を発行して借金を重ねるという状況がございます。日本において企業部門は資金超過で内部留保を山のように貯めているというのですが、それもここに来て業績が低下するなかでこの資産過剰状況もだいたい縮減していますし、家計もまた多くの国々において、ふと気がつけば借金ポジションになっているということがあります。非常に重苦しい借金の山というのが、この地球津々浦々に出現してしまっているという現状がございます。これはいわば政策がもたらした借金の山で、非伝統的と言われるような金融政策により、余り金の大風呂敷を広げてしまいました。こうした中で金融というものが非常に低温化し、マイナス金利も当たり前という、今は不条理金融の時代になっていると思います。金を借りることに伴って何が起るのかを人々が忘れてしまう状況になっているわけで、超超低温金融の中でみんなすっかりそれが当たり前になってしまっているのが今日この頃です。これが何らかの原因で、角を曲がった向こう側に再び金利が正常化していくという状況が待っているとすれば、この借金の山というものはものすごい勢いで地球経済を押しつぶしにかかってくるわけで、倒産・破産・破綻がもう連鎖的にダダダッと起るという状況にいつ陥ってもおかしくないということです。

そういう危うい時に、先ほどの破グローバル状況で国と国との間がぶち切れになっていることで、いずれの国も自分の国のことしか考えない中でこのデフォルトの連鎖が起こることになった時、果たして国々は自力でそのような金融恐慌を回避できるのだろうかかと危惧します。そういう時こそ連鎖と融合、支え合い分かち合いが必要ですが、それがなくなってしまっている中で、このデフォルトだけが連鎖していくとなると、これはなかなか怖いということです。ちなみに実は日本国憲法の中に、そういうことをしてはいけないということが書いてあります。今チームアホノミクスの親分が改憲にもすごく力を入れておいでですが、日本国憲法の前文に21世紀グローバル時代をどう生きるかということが書いてあります。一言だけご紹介申し上げますと日本国憲法前文の最後の下りのところに、「いずれの国家も自国のことのみを専念して他国を無視してはならない」とあります。これを誰が一番読ませたいかといえば、おそらくここにいる我々全員が同じ人の顔を思い浮かべていると思います。今のように借金の山があちこちにうず高くなってしまって、そのことが金融恐慌をもたらすことを回避しなければならないという人類的目標・課題がある中では、いずれの国家も自国のことのみを専念して他国を無視しては、決してこの大惨事を避けて通ることはできないであろうと思うわけです。というわけでこのdefaultが、しかもdeグローバル化の中で世界を覆うということに、今は是非とも目を向けご用心いただきたいと今思う次第です。

話はだんだん、どんどんと陰々滅々として参りまして、なかなかつらそうなお顔の方が目立ってまいりました。これからさらに最後のdeがもっと気の滅入るテーマなのでお楽しみにも思えますけれども、最後のde、depopulation でございます。人口減少という話ですが、この少子高齢化とえば、我々はすっかりこれがもう日本のお家芸、日本が非常に深刻なテーマとして抱え込んでいる話題だというふうに認識しておりますけれども、実はそうでもないであります。人口減少、少子高齢化

は日本だけの問題ではなく、むしろここに来て人口が減っていくという事実と直面している国が多々あるというのが、これもまた今日的なグローバル風景の、重要で見落とすべきではない一側面だと思います。中国については皆様よくご承知の通りでございます。一人っ子政策の結果として人口が非常に頭打ちになって、高齢化・少子化が進んでいるわけですが、それでも実のところは中国と日本だけでもありません。ヨーロッパでも今、この人口減少という問題が非常に深刻なテーマとして持ち上がっています。クロアチアという国が現在 EU 欧州連合の議長国をやっておりますが、EUとして考えなければいけない問題として、このdepopulation を掲げております。このクロアチアが非常に急速な人口減少で、国の存亡がかかる問題となっておりますし、他の多くの諸国でも同じような問題と直面しております。出生率がどんどん下がっていることに加え、欧州統合が進む中で同じヨーロッパの西側の方に、どんどん若者たちが移住をしてしまうという問題と直面しています。イタリアでもスペインでもポルトガルでもイギリスでもこの人口の伸び悩み問題、あるいは減少問題がのしかかってきており、とりわけ出生率の著しい低下がこの西ヨーロッパ側の国々では大きな問題になっています。

この人口減 depopulation という問題をどう捉えるかですが、果たしてこれは本当に問題なのか、なぜそんなに depopulation を嘆かなければいけないのかについては、私はちょっと違和感がございます。というのも、地球環境がこの地球経済の膨張のし過ぎによって非常に危機的な事態に陥っており、温暖化で地球は本当に絶大なる環境異変にみまわれている。そしてそうした地球環境のことを考え、地球経済の膨張には歯止めをかけるべきだという議論もされており、「化石燃料を使わないようにしましょう」などということ言っている一方で、「人口が減るのは問題だ。経済を成長させ続けるためには、人口を減らせてはならない」というような議論があるのは辻褃の合わないことで、人口減少は駄目だと思ひ込むことがむしろ危険なのかもしれません。ここでまたこの世の中が破グローバル、deグローバル化した状況で国々がそれぞれ自国の人口減少を心配し始めると、なかなか臭いと言いますか、厄介な行動をそうした国々の中に引き起こしてしまうのではないかと思います。人口を減らしてはならぬというので、「産めよ増やせよ」とやたらに女性は家庭に引きこもれとかいう話になるかもしれませんし、国境を越えた人の奪い合いというような事態にも発展しかねません。現実にポーランドでは、海外に出稼ぎに出ている人たちにどんどん帰って来いということをお願いしています。あるいは他の国々の能力ある人材をやたら引っっこ抜こうとするような展開になると、これはまさに破グローバルの力学がそこからさらに深刻化していくことにもなりかねません。

さらにはどうしても人口が頭打ちになる中でも経済を成長させなければならないとなってくると、実際に存在している人々の生産効率を上げる他はないと言うので、労働生産性を引き上げるというプレッシャーがものすごくかかってくることになります。お国のために一億総活躍してください、効率よく総活躍してくださいという話になってくることになれば、人々は非常に厳しいところに追いやられてしまうと思います。この人口減少 depopulation という問題が深刻化し、そのことを巡ってもこの de global、破グローバルの中で、国々がお互いに知恵を提供し助け合うことをしなくなりますと、まさに国々の間で生産性競争というようなものが起こり、我々はものすごい勢いでAIやロボットに言われるままに、猛烈なペースで仕事をするようなことに追い込まれてしまうかもしれない。今やたらに「ポイントは生産性にあり、世界中で賃金が上がらないのも生産性が上がらないせいだし、人々の生活が豊かにならないのも生産性が上がらないからだ

として、とにかく生産性を上げるべしという号令が世界中の政府でかかりがちです。けれども本当に生産性というのはそんな魔法の杖であるのか、生産性が上がると本当に賃金が上がるのか、については大きな疑問があります。

企業が生産性を上げようとするのは生産コストを抑えるためであり、全ての企業経営者が、生産性を上げた分だけ賃金を上げるなどという素晴らしい発想の持ち主だとはい底言えないと思います。ちなみにカールマルクスの資本論の中においては、労働生産性が上がったからといって賃金があるなどということは決してなく、「8時間でできたことが4時間でできるようになったからといって、4時間でお家に帰っていいよなどと資本家は決して言わない」と明言されています。この生産性という言葉は本当に要注意で、果たして人間を本当に幸せにする言葉かということが大いに気になりますが、そのような生産性革命の旗がdepopulation が進行する中で振りかざされるということになりますと、なかなか怖い世界に我々は引きずり込まれてしまうかもしれないと思います。ここにおいでの皆様多くは、おそらくチャーリー・チャップリンのモダンタイムスという映画をご存知だろうと思いますが、あの映画の中ではチャップリンさんがベルトコンベアの脇に張り付いて、ご飯を食べる間もなくベルトコンベアのスピードに合わせて仕事をするシーンがございました。depopulationの下で、そしてdeグローバル化した状況の下で、defaultを回避するため、モダンタイムス的な働き方を人々が強いられることがないようにしなければならぬと思います。

2020年の冒頭に当たりまして、我々は三つのde言葉に大いに注意していかねばならないと申し上げましたところで、早くもちょうど残り時間が40秒ぐらいになってきましたので、ここで残念ながら私の話を終わらせていただきます。どうもお付き合いありがとうございました。

次年度ホストクラブ会長挨拶

関谷 俊征会長



皆様こんにちは。名古屋瑞穂RCの関谷と申します。本日は4RCの合同例会ということで、名古屋東南RCの中島会長をはじめ、会員の皆様には大変お世話になりました。大変興味深い話を聴く機会を作っていただき、有益な例会であったと思っております。最近にない4RCの合同例会の計画を立てるのにきつと色々ご苦労をされたのではないかとと思っております。この合同例会は4つのクラブがそれぞれ持ち回りでホストクラブを務めて開催するという事になっております。その時々でそれぞれのクラブの考えで計画するというのも、合同例会の大きな特徴ではないかと思っております。来年は私ども名古屋瑞穂RCがホストクラブとして4RC合同例会を開催する予定です。今からじっくり準備をして、皆様にとって有益な例会になるよう進めてまいりたいと思います。来年は会長ではありませんので気軽にお話しさせていただいておりますが、明日から一生懸命準備をして、来年の合同例会に向けて努力をすることをこの場で固くお誓い申し上げまして挨拶とさせていただきます。どうかよろしくお祈りいたします。

手に手つないで

ソングリーダー熊谷多津旺さん指揮のもと、ロータリーソング「手に手つないで」を唱和しました。



閉会の挨拶

名古屋東南RC 片山 圭水さん

挨拶という事で少々お時間を頂戴いたします。私も後期高齢者、それに付け加えますと晩期高齢者にすぐなるんですね。そんな事で記憶も定かでない、すぐに記憶が飛んでいく、今言われた事もなんだったかなという事なんですね。それで書いたものを持ってきたんですが、それをみても話がなかなかまとまらない、本当にまとまらない。そんなわけで支離滅裂とした話になるかもしれません。

私はとにかくこの場に立ったらひとつどうしても申し上げなければならない事があるんです。今から12、3年前にガバナーをやらせていただきました。その時に普通はガバナーを輩出したクラブが全ての組織をして、担当者や役員を決めて、自分の力ひとつでやるんですね。ただその時だけは私の心が少し動いて、名古屋南RCさんも一緒にとお願いをし、そして名古屋瑞穂RCさんにもご協力いただき、名南RCさんにもお願いをして、ガバナー事務所を組織するのに人数を出していただいたんですね。名古屋南RCさんには一番重要な幹事を、親クラブとして出して下さいねとご協力を仰ぎました。名古屋瑞穂RCさんにもどういった巡り合わせか、ちょうどこちらが思っていたのと一緒になりまして、近藤ガバナー補佐を出していただきました。名古屋名南RCからは小島さんに副幹事としてでいただきました。

それは当時としては名古屋東南RCひとつで組織は出来たと思えますが、その10年前にもう一人ガバナーを輩出しているんですね。ご承知の方は多いと思いますが、犬飼さんという名鉄観光の副社長をされておられた方ですが、1年ガバナーをされて6月30日に役員、各RCの会長幹事、地区の委員長を集めて打ち上げの懇親会を催されました。その時までは非常に元気で、お酒もおかわりをされました。そして8月になって突然亡くなられました。名古屋東南RCとしてはパストガバナーが出来た、これからクラブとしての格が上がるというぐらいの思いでガバナーを出したわけです。ガバナーの任期が済んですぐに亡くなられたので、またその10年後にガバナーを出すなんて事は、財政的にも厳しい事もあり、名古屋南RCを親クラブとする4RC全体で私のガバナー年度を支えたいと思いましたし、そのようにお願いをしました。皆様から広くご協力をいただいた、そしてガバナー年度を過ごす事ができ、いまここに立っている訳です。まだ皆様にはご恩返しのお礼をまったくしていないんですね。10年経ってようやく「ああ、そうだった」という思いが出てきて、今日挨拶を頼まれたので、そういう話をするといいかんと思ってきたわけです。この場をお借りして御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

それはそれとしてですね、この4RCの合同例会非常に良かったと思いますが、17階で受付をして下の階にいらっしゃるというのは新しいやり方ですね。名古屋南RCを筆頭としている4RCと同じ形をしたグループが西名古屋分区にもあります。そこは名古屋西RCを筆頭とするグループです。RCに長く在籍していると名古屋西RCさんはどういうふうになっているだろうか、ガバナーはどれだけ出されているだろうか、会員数はどれだけいるだろうか、とこち

らのグループと頭の中で絶えず評価があるんですね。そこでガバナーの人数はどうだろうと比べてみました。名古屋南RCは早い時期にガバナーを2名出されております。ほお、なるほど。名古屋南RCさんは名古屋西RCよりいい、と思いました。名古屋名南RCさんもそろそろガバナーを出してもいいな、と思っております。

この4RC合同例会も単なる親睦ではなく、共同で奉仕活動をするとかそういったことも企画をしていただけたらいいのではないかと思います。皆様ありがとうございました。

加盟認証状伝達式 地区インターアクト委員 山口哲司さん

2月6日(木)、「大成中学・高校インターアクトクラブ」加盟認証伝達式に出席しました。



例会のご案内

- 今週の卓話 2月13日(木)
テーマ：新会員イニシエーションスピーチ
会員卓話：安井 友康さん
- 次週の卓話 2月20日(木)
テーマ：新会員イニシエーションスピーチ
会員卓話：新見 光治さん
- 次々週行事 2月27日(木) 西名古屋分区IM
時間：16:00~20:00
場所：ヒルトン名古屋4階 「竹の間」
5階 「扇の間」